

Frontline

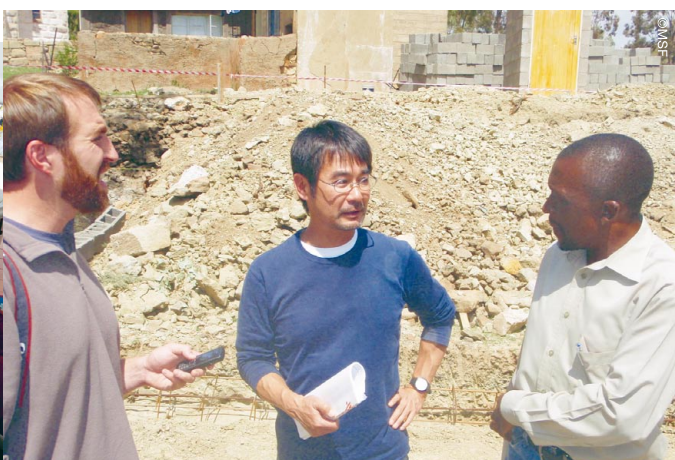
国境を超えて命と向き合う

[フロントライン]
Vol.14
November 16, 2014

Feature

寄付が支える
医療活動——
患者、スタッフ、
寄付者の思いとは

寄付は
命を守る資金になる



「いのち」への思いで つながっていく

国境なき医師団 (MSF) のスタッフが向かうのは、紛争や自然災害、貧困のために病院に行くことさえままならない患者がいる場所。

そして、ここ日本にも、顔も知らない「患者」や「スタッフ」に思いを寄せ、活動を支える「寄付者」がいます。命を守っているのは医師だけではなく。医療・人道援助を通じてつながる「患者」、「スタッフ」、「寄付者」。今号では、それぞれの思いにフォーカスします。

寄付が支える医療活動—— 患者、スタッフ、寄付者の思いとは



寄付者 阿部温子さん(日本)

活動に勇気もらい、 寄付を通じてエールを送る

父が“幸せのおすそわけ”と呼んでいるMSFへの寄付を、私も始めました。出産を経験して、国が違っても明日の命が分からない人がいてはならないと思ったのです。私の夢は、さまざまな境遇の子どもたちが目標を持てる未来をつくること。困っている人がいるから助ける、それが可能だと思えるMSFの活動に勇気づけられます。「つらい活動でも、遠くから応援している人がいることを忘れないで」、そんな気持ちを寄付に込めています。

患者 情勢不安地域で負傷し、手術を受けたモハメドくん(パキスタン)

MSFのお医者さんはみんな 優しくて安心しました

モスクでの礼拝から帰る途中、争いに巻き込まれ、背中をナイフで刺されてしまったんです。MSFのお医者さんがいる病院に運ばれて、手術を受けられてよかったです。外国人を見るのも初めてでしたが、みんな、とても優しくしてくれています。いつか日本にも行ってみたいです。



MSF ドナーサービス スタッフ / 三崎有希子(日本)

MSFの活動は寄付者の思いが込められた 資金で成り立っている

MSF日本事務局で寄付の問い合わせに対応しています。特に年配の方々からは、日本が貧しかった頃を思い起こし、いま世界で苦しむ人々を助けてほしい、そんな声をよく頂きます。「わずかなお金ですみません」とおっしゃる方もいますが、寄付に込められた皆さんの思いが集まる、その先にMSFの医師やスタッフがいます。寄付者の皆さんはMSFの活動を担うかけがえのないパートナーです。



患者 大地震で右足を切断するだけを負い、治療を受けるミランダちゃん(ハイチ)

早くちゃんと治して学校に行きたい!

がれきの下から救出の音を聞いたときは、「私はここから出なきゃ。学校に行かなきゃ」と思っていました。早く治して学校へ行って、将来は看護師さんになるのが夢です。MSFのテント病院に入院したとき、看護師さんが働くのを見るのが好きだったんです。



寄付者 川原和美さんと2人の娘さん(日本)

母娘3人の我が家だからこそ MSFに共感したのかもしれない

以前は、寄付はお金持ちがするものと思っていました。でも、「1円、2円を積み重ねて、寄付が可能な額に達したら振込をする」、それでも人の役に立つと分かりました。フランス語を学んでいた長女がMSFの話をしてくれて、人の心の底にある「どうにかできないか」という思い、優しさを、強く感じたのです。福祉と医療を学ぶ次女にも影響を受けました。裕福ではない母子家庭だったからこそ、生まれたつながりかもしれません。

MSF ICT担当・現地スタッフ / テンダイ・ムハンガ(ジンバブエ)

「もらう」から「贈る」へ 命を救うギフトの使い方に感動

MSFはこの国で年間約5万人にHIV/エイズや結核の治療を提供しています。資金を出してくれるのは海外のお金持ちかと思っていましたが、大半はごく普通の人たちの寄付と知ったときは感動しました。結婚祝いの代わりにMSFへの寄付を募った英国の新婚夫婦がいました。もらえるはずのプレゼントを、見ず知らずの誰かを助けるために贈る人がいる。その贈り物がこの国で多くの命を支えていることに、感謝しています。



寄付者 日本ヒューレット・パカード株式会社 MSFサポートチーム ITアーキテクト / 大西基一郎さんとチームの皆さん(日本)

情報システムを通じて MSFの使命とチャレンジを応援します

PCやサーバーなど自社製品の寄贈から始まり、現在は社員がMSFの情報通信システムの強化に共に取り組んでいます。「身体や心の健康、人権の尊重」が当社のCSRの柱の1つであることから、最も援助が届きにくい人びとに最も必要な医療を届けるMSFに敬意をもち、応援しています。ITの専門性を活かして社会に貢献でき、多くの命を救うことにつながっていると思うと、やりがいを感じます。



MSF 海外派遣スタッフ 建築士 / 山住邦夫(日本)

寄付という行為には お金とは別の意味もある

日本で1級建築士として働いた経験を活かし、MSFの活動で医療施設の建設や改築の設計業務にあたっています。大きな予算を伴う仕事なので、寄付で集まったお金を1円たりとも無駄にはしていないという緊張感があります。皆さんが寄付を機に、日本ではあまり報道されない国のことを知り、そこで何が起きているのが、何が問題なのかを知り、理解してくださること。これはお金と同じくらいありがたいことです。



つながりを支えるのは信頼

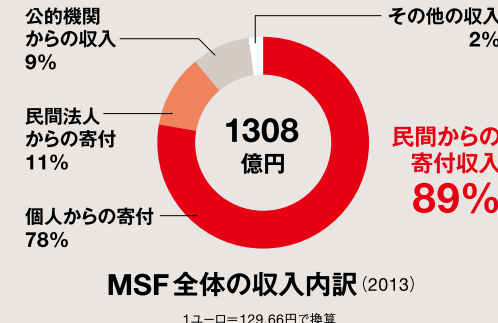
MSFの活動は、民間の寄付に支えられています。支援を頂く皆さまの信頼に応えるため、MSFは財務の透明性と説明責任を重視し、財務活動の詳細を開示しています。全世界の活動を含む「国際版財務報告」と、日本事務局の財務諸表を掲載する「MSF日本 活動報告書」は、公式サイトで閲覧・ダウンロードできます。

詳細はこちらから ➡ www.msf.or.jp/library/



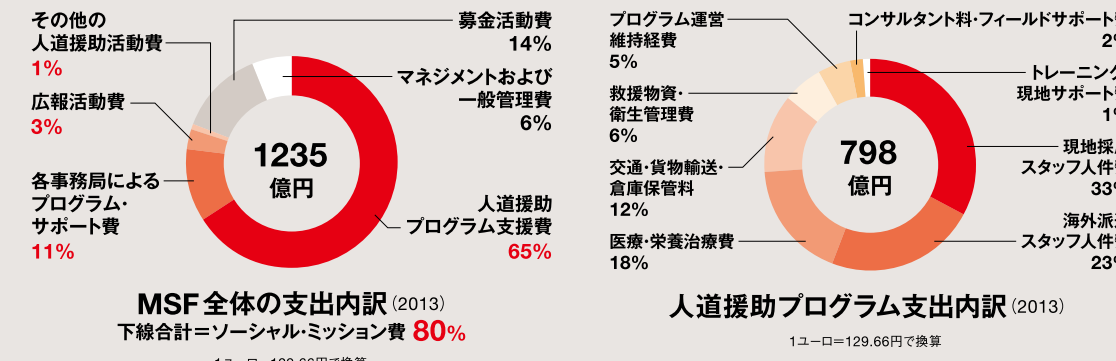
なぜ「民間からの寄付」に こだわるのですか?

MSFは、医療ニーズを独自の調査で判断し、人種、政治、宗教にかかわらず中立に、いかなる患者に対しても公平に医療を提供しています。そのためには資金面でも中立である必要があるのです。2013年度は世界500万人以上の民間の皆さまにご寄付いただきました。



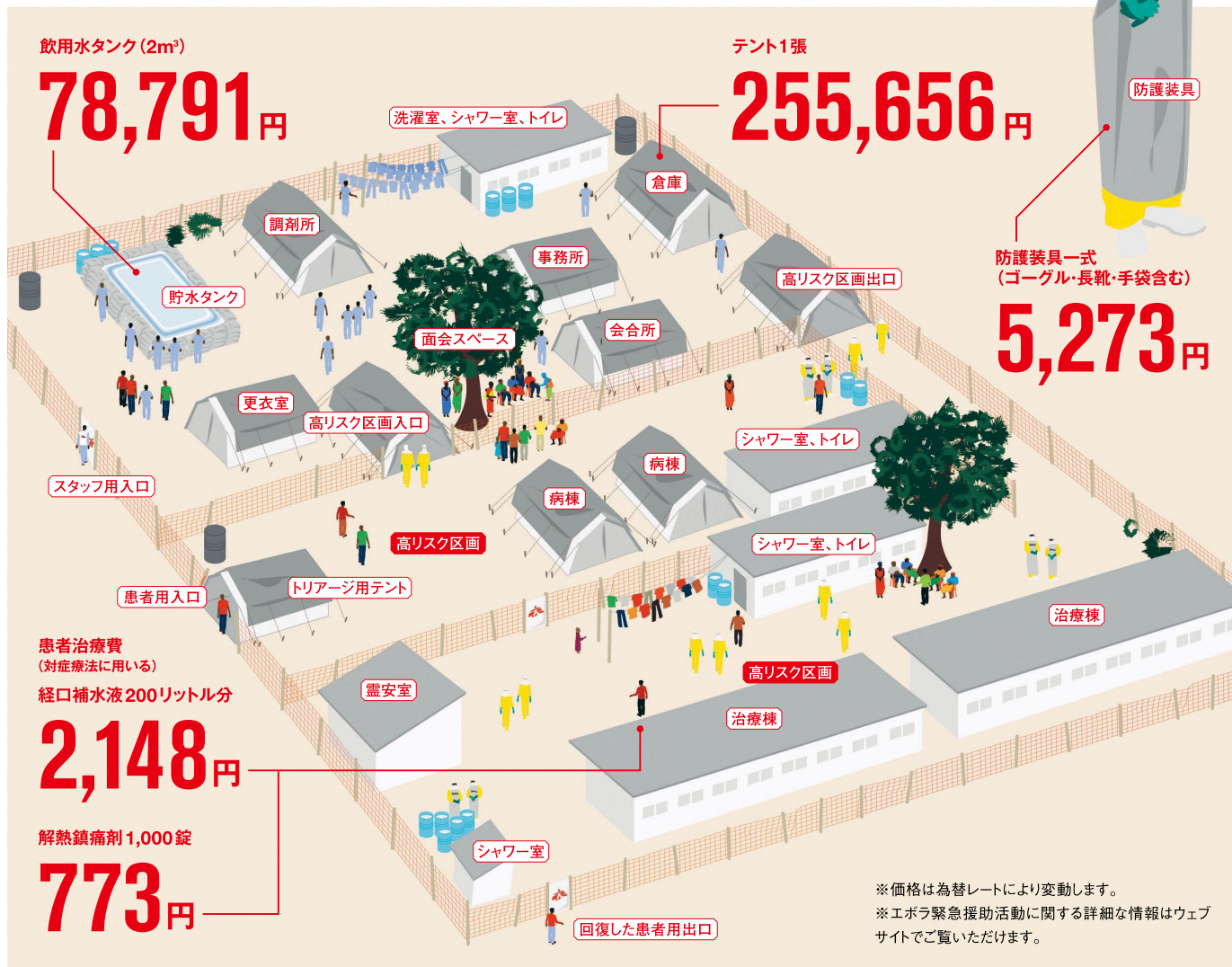
資金は何にどれくらい 使われているのですか?

MSFは全支出の8割を、募金活動費や管理費を除く、「ソーシャル・ミッション」に直接使うことを公式目標にしています。その主な内訳は、活動現場で使われる「人道援助プログラム支援費」、事務局からの「プログラム・サポート費」、証言活動に使う「広報活動費」です。



寄付は命を守る資金になる

イラストは、エボラ出血熱の流行地域に、国境なき医師団が設置している専門治療施設の様子。
ここでも、皆さまからいただいた寄付が役立てられています。



国境なき医師団とつながる



いまからできる、国境なき医師団 (MSF) の活動に協力する3つのカタチ
詳細はウェブサイトをご覧ください

国境なき医師団

支援する SUPPORT

エボラ緊急支援に感謝



ギニアの元外交官でタレントのオスマン・サンコンさん (写真右) が、国境なき医師団日本事務局を訪問。ジェレミ・ボタン事務局長 (左) に「故郷ギニアでエボラ対策に取り組むMSFと日本の皆さんの支援に感謝を伝えたい」とメッセージを頂きました。皆さまの引き続きのご支援に改めて感謝申し上げます。

参加する WORK

説明会はYouTubeでも



募集説明会は全国で随時開催。会場に行けないという方はぜひウェブ説明会にご参加ください。詳細はウェブに掲載しています。

広める SHARE

シェアも支える力になる



©John Moore/Getty Images

ファン数16万人のフェイスブック公式アカウントで人気の“あなたの力で、救える命”シリーズ。活動地の今を伝えるストーリーを通じて、支援の輪が広がっています。

SNSで医療・人道援助活動をシェア！



国境なき医師団/Médecins Sans Frontières (略称MSF) は、1971年にフランスで設立された非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体。

医師、看護師などの医療従事者とアドミニストレーターなどの非医療従事者、のべ6000人の派遣スタッフが、約3万人の現地スタッフとともに、約70の国と地域で活動を行う(2013年実績)。「独立・中立・公平」を原則とし、人種や政治、宗教にかかわらず無償で医療を提供する。また、援助活動の現場で虐殺や強制移住などの著しい人権侵害や圧倒的な医療の不足を目の当たりにしたとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言している。1999年、ノーベル平和賞受賞。

MSF日本は1992年に設立され、2013年までに293人のスタッフを、のべ874回、活動地に派遣。MSF日本の活動資金はすべて、個人を中心とする民間からの寄付金でまかなわれている。

寄付の種類を選択する

未来を支える「毎月の寄付」

毎月定額を寄付いただく方法です。継続的に支援をしていただくことにより、緊急事態への迅速な対応が可能になります。例えば…

毎月 **1,500円** (1日50円) | 清潔な飲料水 毎月 **63人分**

遺言による寄付、相続財産の寄付など、さまざまな寄付の形をお選びいただけます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

今を救う「今回の寄付」

任意の金額をそのつど、寄付いただく方法です。例えば…

3,000円 | 基礎医療セット 毎月 **120人分**

申し込み方法を選択する

お電話で

0120-999-199

通話料無料 (9:00～19:00 / 無休)

携帯電話・PHSからもつながります。

インターネットで

www.msf.or.jp

クレジットカード、インターネットバンキング、コンビニ支払い、電子マネーによる募金を受け付けております。

郵便局 (ゆうちょ銀行) で

振替口座 **00190-6-566468**

口座名義 **特定非営利活動法人 国境なき医師団日本**

寄付金控除についてのご案内

国境なき医師団日本への寄付は、税制優遇措置の対象となっています。所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税などが対象になります。優遇措置を受けるためには申告が必要です。確定申告にご利用いただける領収書を送付致します。

詳細はこちらから ➡ www.msf.or.jp/donate/kojo.html

CAMPAIGN あなたの寄付でワクチンを送ろう! キャンペーン

ワクチンがあれば救える命がある。子どもたちの未来を開く予防接種に協力を！

ワクチンにより、命に関わる病気から守られている子どもは、毎年推定200万人から300万人。予防接種は、子どもの命を救う最も効果的な方法の1つです。その一方で、推奨されている予防接種を受けることができない年間150万人の子どもが命を落としています。紛争、貧困、医療システムが整っていない……。予防接種を受けることができない理由はさまざま。特に発展途上国の子どもたちの予防接種率は低く、5人に1人は予防接種を受けることができていません。ワクチンがあれば助かる命があります。皆さまのご支援で1人でも多くの子どもにワクチンを！

詳細はウェブから [ワクチンキャンペーン](#)



©Gwern Dubourthouren

Frontline

国境を超えて命と向き合う

【フロントライン】
2014年11月16日発行
第14号

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

Frontlineのご感想をお寄せください。

〒162-0045

東京都新宿区馬場下町1-1 早稲田SIAビル3階

国境なき医師団日本「Frontline編集部」

frontline@tokyo.msf.org

TEL

0120-999-199

通話料無料 (9:00～19:00 / 無休)

WEB

www.msf.or.jp

